

新 素 材

製品開発への新提案

塩野香料

新東京本社始動、 創香とアプリケーション開発を強化

塩野香料は、未来を予測・予見した製品を開発する体制にシフトし、創香力の向上に取り組んでいる。2023年4月に東京支店の新社屋“s+park”が完成し、7月1日付で東京支社を東京本社として大阪本社との2本社制に移行した。さらには、代表取締役副社長の塩野太一氏(写真)が代表取締役社長に、代表取締役社長の塩野秀作氏が代表取締役会長に6月27日付でそれぞれ就任した。



塩野太一社長は「当社では創業から215年間にわたり挑戦と変革を続けてきており、創香をコアコンピタンスとして、次の100年に向けてこれまでの食品や日用品にとどまらず、医療分野やモビリティアート、宇宙産業に至るまで香料の可能性を広げていく」との考えを示した。

応用開発機能を東京本社に集約

s+park(スパーク)は、“鼻で企むイノベーション・フロント”をコンセプトに旧東京支店の向かい側に建設された。これまでの東京支店の機能に加え、大阪事業所にあった応用開発機能(創香、アプリケーション、香気分析)のすべてを移管し、合わせて開発スタッフも異動している。これにより、マーケティング、開発、営業が三位一体となって共創を強化し、エビデンスを重視した香料を開発してアプリケーショ

ン提案を行なっていく。

公園のイメージで香りの可能性を信じる仲間が集まり、交流し、工夫して遊ぶなかで、アイデアがスパークして新しい遊び方が生まれる拠点になることへの思いをその名称に込めたという。

アイデアを形にするラボスペース

s+parkは地上9階建てで、ラボスペースを5階のセイボリー、6階のスイート、7階のアプリケーション、8階のフレグランスとカテゴリーごとにフロアを分けて創香とアプリケーション開発を行なっている。これにより、おのコンタミネーションを防止している。また空調・常時排気装置の設置により、調香空間を無香にすることが可能になった。さらに、ビル外ににおいを排出しないようにするため排気処理装置を屋上に整備し、近隣環境との調和を図っている。

また、アプリケーションラボはすべての食品カテゴリーに対応できる設備を整えており、より精度の高い製品開発を実現している。たとえば清涼飲料水の試作に必要なUHT装置、オートクレーブ、缶・びん巻締機などを揃えており、さらにはリキュール、スピリッツの試験製造免許も移転にともない再取得している。そのため各種飲料や



チューハイなどの処方開発をこれまでより迅速に行なえる。さらに試食のための評価室も隣接している。

アイデアを生み出す コミュニケーションスペース

オフィススペースは3階と4階にあり、ABW(Activity Based Working)の考え方を取り入れ、仕事に集中できるFocusゾーンとテレカン(個室)ブース(ともに3階)、社員間の交流を促進するDanceゾーン(4階)を設けてオフィス内をゾーニングしている。このように目的に応じたワークスペースを設置することで新たなアイデアを創出し、様々な需要にマッチした製品や処方の開発を加速させていく。

また、社外との共創の場になる2階のフロアでは、会議室に試飲や試食のためのシンクを設置し、評価スペースとしての機能をもたせた。さらに最上階の9階にある多目的ラウンジスペースでは各種セミナーやワークショップなどを行なうほか、本格的なキッチンを設置して社内外のコミュニケーションの場としても活用していく。

このように2・4・9階で生まれたアイデアが、5～8階のラボスペースで創香とアプリケーション開発に結び付けていくのだ。塩野香料では、s+parkを新たな挑戦と実験的な取り組みの場とし、事業の成長を加速させていく。

⑧

東京本社s+parkの概要

所在地：東京都千代田区神田紺屋町19番地
TEL：03-3251-7338(代)
敷地面積：440.96㎡
延床面積：2,369.24㎡